

第 65 回可児駅伝競走大会 競技上の注意事項

1. 競技全般について

- ・本大会は、2022 年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び日本陸上競技連盟駅伝競走規準に基づいて実施するものとし、大会中は、競技役員の指示に従うこと。
- ・会場のぎふワールド・ローズガーデンは、一般の来場者もあり、走路(左側)としてコーンで仕切られた部分以外は、一般来場者の歩行エリアなので走行しないよう注意すること。
また、一部走路を一般来場者が横断する箇所は、走路員の指示に従い注意して走ること。
- ・伴走は一切認めない。
- ・競技者は、監察・走路員の指示が無い限り、走路の中央線より左側を走らなければならない。
- ・競技用「たすき」は、主催者が用意したものを使い、必ず肩から斜めに脇の下にかけなければならない。また、たすきを身に着けずゴールした場合は失格とする。
- ・競技者が途中で競技を続行できなくなった時は、原則として当該チームのその区間の競技を無効とする。その場合、次の区間の走者は、審判長の指示により、最終順位の走者と同時にスタートすることができる。ただし、そのチームの記録や成績の扱いは審判長の判断による。
- ・競技中の事故、怪我については応急処置のみ行い、以降の補償は主催者が加入する保険の範囲とする。
- ・オープンチームの総合記録及び区間記録については参考記録にとどめる。
- ・各区間の競技者は、当日のアナウンスに従い、所定の時間までに招集場所に集合し、ゼッケンを前後に着用した状態で、役員の確認を受けること。

2. 中継

- ・中継線は、幅 50mm の白線で示す。たすきの受け渡しは、中継線から進行方向 20m の間(中継ゾーン)に手渡して行わなければならない。中継線の手前からたすきを投げ渡してはならない。
- ・中継の着順判定およびタイムの計測は、前走者のトルソー(胸)が中継線に到達した時とする。
- ・たすきを受け取る走者は、前走者の区域(中継線の手前の走路)に入ってはならない。また、たすきを渡した走者は直ちにコース外に出なければならない。
- ・たすき渡しに際して、たすきを外してよいのは、中継の前走者は中継線の 100m 手前から、次走者は、中継後 50m までの範囲をおおよその目安とし、黄色のコーン付近を目印とする。
- ・次走者は、ゼッケンナンバーのコールを受け、役員の指示のあるもののみ中継ゾーンに入ることが出来る。それまでは、コースに入ってはならず、マスクを着けた状態で待機する。
- ・周回遅れの走者は、中継ゾーンの中の、進行方向から見て右端で、たすき渡しを行う事。

3. 第 1 区走者のスタート要領

- ・第 1 区走者のスタート位置は、部門ごとにゼッケンナンバー順とする。
- ・スタートの 10 分前、5 分前、1 分前、30 秒前、10 秒前を知らせる。
- ・5 分前から 1 分前までの間に、走者は競技の服装になってスタートライン(中継線を兼ねる)の 1m 手前、または 2 列目以降に整列する。(整列する際にはマスクを外してもよい。)
- ・スタート 10 秒前の告知とともに、スターターが「オン・ユア・マークス」と合図するので、競技者はスタートラインに着く。(ライン上に足が乗らないように注意)
- ・ピストルの合図でスタートする。フライングがあった場合は、1 分後に再スタートする。